

東京第4隊機関誌

卷之三

參拾七

三

37

今日迄、長崎四隊は
共に生活して来られた、
力士大隊長志水さんが、
道は札幌に行かれました。
大学を卒業されて北海
道とになりました。
向うでは、獣医さん
とここで牛や馬を相
手に暮すのだそう
です。住所はま
だ分りませんが、ま
す。次号でお知らせしま
す。出發は二日、夜行
で行かれます。運行
多勢のスクウトがお見
送りするのをのみ
ます。カブスカウトの人達も
多く、東京駅からだと思
います。志水さんは、四隊のも

志水 カブ隊長
いよくお別れ

北海道

東京

HIKING

高橋弘長

HIKIN
高橋 弘長



あなんごともふま朝かをひまトるくらで。こにシ「なはに」
た。の今るにだかととだおも云。るかとな。あ思と。フ月リ。今なほ
し。年らもすチヘニねきしうそのうみリバ。るいをばに。のま度れく
みのしなと。持ろて。るれと。出かん行輪し。まは
でキ。り思。か。と。な。わ。主に。き思。し。た。編し。ニ
す。ヤ。や。や。て。う。た。ワ。ン。す。のま。いま。の。集た。の
。シワ原て。つ。手。ニ。け。さ。初。こ。す。出。こ。時。ぼ。部。間
フハ因手て。を。ふ。されん。れが。一。人。ひ。が。め。に。た。始。く。の。そ。や
が。ハ。は。を。ひ。て。出。と。ん。ど。が。か。き。育。な。び。き。に。た。の。ゆ。は。一。れ。
今。ゆ。み。る。し。み。だ。い。お。ら。も。に。が。く。も。め。ニ。そ。て。力。部。で。と
か。ゆ。る。は。て。る。け。う。こ。ニ。ち。出。テ。ち。起。は。つ。の。キ。ブ。員。ぼ。初
う。で。と。へ。口。と。が。る。れ。良。て。ニ。す。よ。床。朝。た。時。ヤ。の。と。く。綴

青と苗

スカウトの心得

皆さん今日わ。ぼくはスマイルに出してもうのははじめてです。ではひとつ僕の希望を書いて見よう。僕はこれから二級をして、又一級をとり菊、隼、隼、隼に進み技能章たすきを胸にかけたりと思ります。皆さんもそういう気持ちでしょう。そして皆を助けださう。と思ってます。そして今田さんのようになりたつ。皆さう。ごり希望ばかりでどう。これから努力しましよう。

主：ワニさんは本名大飼旁
初級充々ク班 畑中俊彦

等と書きますが、スカウト指し終りに「號榮」イヤサシ同士の手紙では始めに「三ヶ所に書きます。最初に日本連盟に送つて許可を得なければなりません。」

実話物語

大谷探險者の話

編集

後記

スマイルも、もう
三十七号にもなりました。
今度、多勢の編集員が出来
た変社事がうまくゆくよう
になりまし左
前号があまり立派だった
ので一寸困りましたが一生
懸念や、た續ります”
大谷君、高橋さん、畠中
君、中村君、原稿ありがと
うございました。又下さい
ね。次号には“回隊史年表”
をつける予定です。乞御期待

かいい、何故、時計を見る返
わからなかつた分?て?
それは君、ミニは北極なん
だ。そして今は七月だもつ
十月近雇の連続だ。
そこで僕はとたんに食慾
を感じた。腰にさしたナイ
フを引きぬき熊の皮をはり
て見ると、どうだ、丁度ほ
かくとむしやキになつて
いる。僕はさうそくそれを
ごちそうになつたよ。

機門誌